

## 令和6年度第2回一関市藤沢情報通信センター放送番組審議会 会議録

- 1 会議名 令和6年度第2回一関市藤沢情報通信センター放送番組審議会
- 2 開催日時 令和7年2月14日（金） 午後2時から午後3時まで
- 3 開催場所 市役所藤沢支所 特別会議室
- 4 出席者
  - (1) 委員 小野寺健一委員（会長）、千葉とき子委員（副会長）、千田修委員  
※欠席者 橋本信子委員、伊藤智委員
  - (2) 事務局 佐藤詠一藤沢支所長、千葉紀代藤沢支所次長兼地域振興課長、  
伊藤歩地域振興課長補佐兼地域協働係長
  - (3) オブザーバー 株式会社一関ケーブルネットワーク（指定管理者）  
清水祐喜取締役局長、藤根和広制作部副部長、川崎智弘営業技術部長代理

### 5 議 題

- (1) 令和6年度放送番組の実績（令和6年12月末現在）について（報告）
- (2) 令和7年度放送番組の内容について（協議）
- (3) その他

### 6 公開、非公開の別 公開

### 7 傍聴者の数 1人

### 8 挨拶

#### (1) 会長挨拶

一言ご挨拶を申し上げます。会議前にふじさわテレビの番組ガイドが配布されて早速見ていたところですが、藤沢地域の行事では「ふじの実どんと祭」、「おためし神事」が取り上げられていますが、果たしてどのくらいの人がこの番組を見たのだろうと思いました。せっかくの情報ツールが本当に有効に活用されているだろうか、告知放送についても同様に音量を落として聞こえないようにしている方もいるのではないかと、そんな思いを抱いているところです。

我々としては、市民の方々に見てもらえる、聴いてもらえそうな番組にしていきたいと考えています。そういう意味でも、皆さんの意見が大事だと思っています。本日は2名の委員が欠席ということですが、今後の放送番組充実のために3名の委員から貴重な意見を賜りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## (2) 藤沢支所長挨拶

本日はお忙しいところご出席をいただきまして誠にありがとうございます。委員の皆様には日頃より市政運営にご協力を賜りまして、ありがとうございます。

一関市藤沢情報通信センター放送番組審議会は、放送番組の適正化を図るため、放送法に基づいて一関市藤沢情報通信センター条例により設置し、年2回開催しております。当センターの放送番組につきましては、行政情報や地域のイベントなど、タイムリーな情報発信に努めているところであります。

ふじさわテレビの加入率は、新築や転入による新規加入がある一方で、転居や高齢者の施設入所、契約者の死去による解約も増加してきており、新規よりも解約の件数が上回る状況は今後も続くだろうと思われまます。

また、令和5年1月24日からデータ放送のスマートフォンアプリ「J C - S m a r t」のサービスを開始しまして、2年が経過したところです。ご利用のスマートフォンやタブレットに、専用アプリ「ふじさわチャンネル」を新規に登録する件数は、毎月徐々に増えてきているところです。いつでも、どこでもデータ放送のお知らせ情報を得られるようになっていきますので、今後も、さらなる情報発信に努めるとともに、サービスの向上を図っていきたいと考えているところです。

本日は、令和6年度12月末時点での放送実績の報告と、令和7年度の放送番組の内容について協議させていただきます。忌憚のないご意見をいただきますようお願いして、開会に当たっての挨拶といたします。本日はどうぞよろしく願いいたします。

## 9 審議内容

### (1) 令和6年度放送番組の実績（令和6年12月末現在）について（報告）

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

会 長 質問だが、先日の2月2日に「地域づくりフォーラム」が開催され、表彰式と講演会の幕間に藤沢小学校の校長先生が壇上に上がり、ボランティアのお願いについてお話があった。藤沢地域の自治会長の皆さんが集まる機会ということでの発言だったと理解するが、あのような情報こそ全住民に対して告知放送を利用して知らせてもいいのではないかと思った。地域振興課の考えはどうか。

事務局 校長が話したことは、学校支援事業の関係で、地域の皆さんから学校の活動を応援していただくとうとボランティアを募る内容だった。藤沢地域の学校には今年度から、地域コーディネーターが1名配置されたが、今年度はまだ具体的な活動ができおらず、来年度から本格的に地域の皆さんのボランティアによる協力を得ながら

活動していくことになると思っている。

ご意見のとおり告知放送による呼びかけが有効だと考えるので、学校側と相談しながら進めていきたい。区長会を通じて、この件についてのチラシ配布も行ったところなので、来年度に向けて積極的な周知を考えていきたい。

委員 告知放送は、藤沢地域が会場となる行事のお知らせを主に行っているが、現在は行政組織が広域化して保健師、栄養士などは千厩地域に集約されているが、幼児健診などは今でも告知放送で周知している。それ以外の行事で、他地域で行われるものについても藤沢地域住民が対象となっていれば告知放送で周知していければ良いのではないかと思う。特に保健、福祉の分野の講演会やシンポジウムなどを、例えば川崎や千厩で開催する場合は放送しても良いのではないか。

事務局 藤沢地域以外の会場で行われる催し物であっても、藤沢地域の住民も参加できる行事であれば放送する対象となる。基本的に放送は庁内、庁外からの依頼に基づき行っているので行事の主催者、市の担当課から依頼があれば放送するが、他地域では告知放送の仕組みについて必ずしも認知度が高くないものと思われる。藤沢支所から、必要に応じて告知放送というツールがあることについて発信していきたい。

なお、先日、藤沢ふるさと会から依頼があり、東京で開催予定の会合についても放送することにしてるので参考までにお知らせする。

委員 ふじさわテレビとの関係についてだが、例えば「マンスリーふじさわ」のコーナーで地元の行事を取り上げている。2か月前の行事を放送していることもあるようだが、番組の放送日時は分かっていることなので、そういう情報を告知放送で知らせても良いのではないか。そうすることで、より興味を持って見てもらえるのではないかと思う。と言うのは、ちょっとテレビを点けてみて「ふじさわテレビを点けても全然藤沢のことを放送していない」と言う地域住民もいる。新聞のテレビ欄や無料で配布している番組ガイドを見れば、藤沢地域のことをいつ放映しているか本当は分かるのだが、中にはそういった声もある。そういう人たちに知らしめる意味でも、毎日でなくても、告知放送で周知するのが良いのではないかと思うが、いかがか。

事務局 一関ケーブルネットワークで、藤沢地域に特化した番組を組んでいただいているものでもあり、ただ今の意見については藤沢支所としても前向きに検討したい。

(2) 令和7年度放送番組の内容について（協議）

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 臨時放送についてお聞きする。先日、川崎地域で不審な外国人4人が逃走したという事案があったことを新聞報道で知った。そうした情報も放送したら良いのではないか。施錠などの注意喚起の放送があったら良いかなと思う。

事務局 先ほども触れたが、依頼に基づき放送するという形になっているため、庁内担当部署の方で気が付かなければそれまでになってしまっている。庁内での周知を図っていききたい。

委員 ただ今の質問にあった事案だが、周囲でもやはり話題になった。川崎地域を通過した際に、警官の様子が普段と違って「いったい何があったのか」と話していた。

クマの出没情報などは放送があるが、後で聞いて、むしろクマよりも怖い事案だと思った。地域外のことだと、支所でも情報の把握が難しい点もあるとは思いますが、できるだけ対応していただければと思う。

委員 今の件に関連して、小学校の対応として、当日、学校から警察に問合せをしたところ、逃亡者が確保されていないとのことで、学校からは全保護者に対して情報共有ツールを通じて登下校時の注意喚起の配信があった。

子育て世代としては、告知放送に限らずアプリでの配信のほうが情報を取得しやすい面もある。来年度の放送番組については資料のとおりで良いと思う。小学校、中学校の行事に関しては、従来は告知放送を通じて地域にお知らせしていた部分もあったが、新型コロナウイルス感染症でその流れが途絶えてしまったことがある。昨年度からは、徐々に地域との交流が再開されてきているが、学校行事自体を整理しているという部分もある。急激に学校と地域の交流を盛んにするのも難しいが、本日最初に話題になった学校ボランティアのことも含めて、PTAも学校と確認しながら、できるだけ学校行事を地域の方々に知らせていく機会を作っていきたいと考えている。

会長 ありがとうございます。

委員 子どもたちの元気な声を聞きたいと思う。

委員 ぜひボランティアのご協力をお願いしたい。今の学校では、先生たちも一人で学級全部を見るのが難しくなっていて、ちょっとした時間、ちょっとした手伝いというのが必要。自分たちが子どもだった頃と比べると、今は子どもに多様性があるってどうしても目配りが不十分になりがちなので、校外学習などの際には地域の協力をお願いしている。

事務局 告知放送では、以前は学校の長期休暇の間、子どもたちの声で収録した「帰宅時間のお知らせ」を放送していたが、依頼元から最近は通常形で依頼されるので職員が収録している。警察署からは防犯、交通安全に関する子どもたちの声で収録した音源での放送依頼が増えている。

委員 学校ボランティアについてだが、参加したい気持ちはあっても、勇気をもって参加するというのは、なかなか難しいところがある。様々なグループ活動や団体に声をかけたほうが参加しやすくなると思う。ボランティア活動に興味を持つ人も多いと思うので、まずは告知放送などで、「こういうものがある」ということの周知をしていくのが良いと思う。

事務局 ボランティアを募る作業は地域コーディネーターの仕事に位置づけられているが、担当課としても一緒に取り組んでいきたい。

## 10 その他

事務局 藤沢町が合併して間もない頃にFMあすも専用ラジオを全戸に配布しているところだが、藤沢地域では光回線による告知放送端末でFMあすもを聴くことができるということもあって、地域内における専用ラジオでの電波受信状況を把握できていなかったことから、近く調査を行うこととしている。なるべく住民の皆さんの手間にならない形で行いたいが、住民の協力を得ることになるので委員の皆さんにもあらかじめお知らせする。

委員 昨日、一関保健センターで実施された成年後見制度に関する講演会の模様をふじさわテレビで見た。健康講座という形で毎月実施されているようだ。

以前、一般市民から出る意見として一関市行政区長会連絡協議会の場で発言したことがあるが、市内全域を対象とした講座等を開催する場合に、遠隔地にはサテライト会場を設けてオンライン参加・視聴できるようにならないか。おそらく行政内部ではオンライン会議なども行っていることと思うので、市民サービスとしても実施できるのではないか。

事務局 市内でも会場が遠い場合、自動車がなければせっかくの機会でも参加できないというようなことがあると思う。庁内の会議等はオンラインでの実施が増えていることもその通りなので、技術的には可能だと思う。講演の契約内容等でオンラインの取扱いに特に問題がなければ対応できるかもしれない。意見として承り、庁内で共有していきたい。

委員 本審議会とは全く関係のない話をするが、本日午前中に、市の行政区長連絡協議

会の理事会があった。参加者からは市政に対する批判が多いが、今日の会合では閉校施設の状況について意見交換があり、管理が行き届いておらず草が生い茂っているところもある、そういう状況では市長が閉校施設に企業を誘致すると言っても成果が出難いのではないか、自分たちが通った学校が廃れている光景はとても見えないといった話になり、市や市議会に対して声を届けていこうということになった。合併して20年ということだが、年数よりも合併した成果がどうなのか、企業誘致にしてもILCにしても、なかなか成果が目に見えて表れて来ないという話題になった。言いたいのは、住民が元気になるような情報をもっと発信していてもいいよということである。

事務局 ご意見としてお聞きする。

委員 さきほど「マンスリーふじさわ」の話が出たが、内容は1か月同じものなのか。

オブザーバー 基本的に1か月で番組を更新するが、人員が不足していることもあり、現状は取材するトピックがまとまっている時の更新となっている。先日、藤沢町住民自治協議会50周年記念式典もあったので、近く更新になる予定である。

委員 それでは更新になった際には、告知放送での周知がされるよう期待する。

オブザーバー 意見を反映できるよう検討する。

委員 最近、フジテレビのスポンサー減少という話題があるが、一関テレビでは、スポンサー収入はどのような状況か。話せる範囲で話して欲しい。

オブザーバー 広告収入は微少で、加入者の視聴料が主な収入源となる。

委員 スポンサーを増やせば会社にとって良いのかと思ったが、そういうものでもないのか。

オブザーバー スポンサーという意味では、市が最大のスポンサーと言える。

事務局 一関テレビの配信区域は拡大しているのか。

オブザーバー 配信エリアの拡張を検討する場合は、拡張に要するコストと、その結果期待できる収入とを比較して効果を見込む。現状で拡張できるところはほぼ既に拡張済みとなっている。

藤沢地域のような形式は特殊事例で、同様の形で他地域でのエリア拡張を見込むことは不可能で、そうした意味で市が最大のスポンサーと言える。

委員 すばらしい事例だったということで理解する。

事務局 オブザーバーとしてご出席いただいている藤沢情報通信センター指定管理者である一関ケーブルネットワーク清水局長から一言いただきたいと思う。

オブザーバー 冒頭に会長から、地域の人たちにどのくらい放送が届いているのかという話があったが、我々としても、番組を一つ作るにも結構な時間を要するもので、せっかく作る以上は、なんとか多くの人に見ていただきたいという思いである。当然、会社としても努力はするが、市においてもPRなどご助力をしていただければ、非常にありがたい。

また、支所長からは今後も加入よりも解約が上回るだろうという話があったが、そのことは本当にどうしようもない問題だと思う。市内全域で高齢化が進んでいて、「加入者が1件増えて10件減る」という月があるくらい、本当に深刻な問題になっている。人間が120歳まで生きる時代はまだ来ないと思うので、人口減少については厳しい問題だと思う。我々としても、加入者数の減少に歯止めがかかるようになんとかしたいと思っても一体何ができるのか、ということで苦しんでいる。先ほど、人手不足という話も出たが、まさに若い人材がなかなか定着しない。かつては番組制作と言えば花形の仕事で、マスコミと言えばもてはやされた時代も遙か昔のこととなってしまった。今は、「マスゴミ」呼ばわりされるなど厳しい時代だが、なんとか若い世代の人材を確保したいと考えている。皆さんにも、良い人材がいたらぜひ一関ケーブルネットワークの門を叩いてくださいというお願いをしたいくらい、人が集まらない状況が続いている。私が一関ケーブルネットワークに着任したのが東日本大震災の翌年で、当時はスタッフが20名いたが、今は実質16名となっている。一関市では、街を歩いていてもなかなか若い人を見かけない。そうしたことも含めて、一関市という地域の現在を、映像で将来に伝えていくという役割を担っていると考えており、なんとか事業を継続していかなければならないと思っているので、皆さんにもご協力をいただきたい。

また、講演会等にテレビ会議システムを活用することについては、当社でもできることがあると思う。お金さえいただければ、ということになるかも知れないが、ご検討のうえ、随時相談いただきたい。

11 担当課 藤沢支所地域振興課